

## 中国文学のお花畑 中国語中国文学

中国文学には長い歴史があります。あ、またか、と思いましたね。中国と言えはすぐに悠久の歴史とか、3000年の歴史とか、歴史の古さを強調する、と。でも、しかたないのです。

みなさん、想像してみてください。わたしの住んでいるマンションは100㎡以上あります。途方もない広さです。その広さはもっぱら本のためにあります。うちには絵を掛けるスペースがありません。なぜなら壁という壁は全部本棚で埋め尽くされているからです。うちではラジオ体操ができません。なぜなら空間という空間は全て本棚で埋め尽くされているからです。一番奥の書斎からキッチンまでは獣道です。寝室も、気づけば本の万里の長城に囲まれてしまいました。それにも関わらず、就寝前にちょっと読みたいからと本を何冊か枕元に並べます。今は禅の語録と、頼山陽先生の評伝と、囲碁の本です（囲碁を指す「爛柯（らんか）」は中国古典が出典です）。書斎は、本棚と本棚に入りきらない本の山の隙間にデスクがあります。こんなに本が多いのは、ひとえに中国文学を研究しているからです。100年前の本を読もうとすると、それ以前の本をたくさん読む必要があります。ピラミッドを想像してみてください。わたしの家にはピラミッドの底辺に本の群落があちこちにあるのです。春になると桃源郷が、夏になると大樹の木陰が、秋には菊の籬、冬には寒梅が。わたしには本の群落がお花畑に見えます。色とりどりで心和み、いつまでもそこにいたい、そんなお花畑。花は時として蠱惑的で、虜になったら逃れられないところでもります。ふとお花に気を取られていると、どのくらい時がたったかを忘れてしまいます。そして300年くらいは生きようと思うのです。

田村加代子 准教授

「王質爛柯」（出典：劉敬余主編『小学生語文新課標必讀叢書 笠翁對韻』北京教育出版社、2014）



## コロナ禍の日本でフランス文学を学ぶ フランス語フランス文学

「フランスへ行きたしと思へども フランスはあまりに遠し」。この詩句のノスタルジーが過去のものではなくって、2年が経とうとしています。教員も学生も気軽に渡仏し、おみやげのチョコレートやクッキーを研究室の皆でつまんでいたのが嘘のよう。小説を読んでも、映画を観ても、現地に行くことができない焦燥が募るばかりです。

しかし、こんな今だからこそ、共感できる作品もあります。カミュの『ペスト』では、報道される数字（小説ではネズミの死骸の数）に煽られる人々の恐怖、突然の都市封鎖による愛する人との別離、悔悟、絶望、そしてあきらめの心情が、まさに私たちのこの2年の体験と結びつきます。

また、コロナ禍は日本でも新しい言葉を生み出しましたが、それはフランス語でも同じです。昨年の秋に研究室主催の「フランス語一日合宿」にお招きした言語学者のアンドレ先生より、SNSの普及により生まれた略語が、日常のフランス語にも取り入れられていることを教えていただきました。コロナにまつわる新しい用語が今後語彙として定着していく過程を見守るのも興味深いでしょう。

同じく昨年秋より、フランスの権威ある文学賞の候補作をめぐる、「日本の大学生が選ぶゴンクール賞」という企画が始動し、研究室の学生は中部地方の要として読書会や討論を重ねました。2021年度の候補作は人種・移民問題、ナチズムが現代フランスに残す爪痕、障害児とその家族など、現代の社会を反映したものが目立ちました。次年度以降はコロナを取り上げた作品が増えることが予想されます。私たちが生きる現実と文学表現の関わりを肌で感じる機会を、奇しくも世界的パンデミックがもたらさずです。

加藤靖恵 教授

2021年11月 Frédéric André 先生を囲んで



## 日本語だけではない日本語教育 日本語教育学

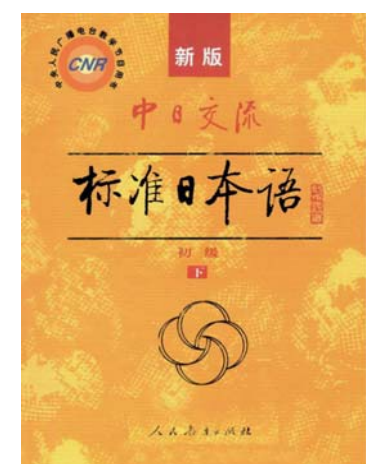
日本語教育というと、文字通り「日本語の教え方」の学問と思われるかもしれませんが。確かに教え方も日本語教育において不可欠な知識ですが、効率的に日本語を教えるためには、まず日本語の文法を学習者視点で見ること重要です。日本語母語話者が「勘」で使っているものを、外国語話者に論理的に説明しなければなりません。なぜかと言うと、外国語の話者は日本語母語話者のように「勘」で日本語を使うことができませんから。

留学生である私の研究は、日本語と母語の比較に基づくものなので、自分の母語をよく理解しておく必要もあります。しかし、日本語を母語とする人にとって、日本語だけを研究すればいいというわけでもありません。教育の対象が異なる言語を使っている人である以上、万能な教え方が存在するわけがありません。例えば、中国語母語話者には、日本語学習の初期段階ですべての漢字を教えることができますが、中国語の文法は日本語と大きく異なるため、文法教育には特に注意を払う必要があります。一方、現代韓国語では漢字をあまり使わなくなったため、漢字を段階的に教える必要がありますが、韓国語文法が日本語文法に似ていることは、韓国語母語話者への日本語教育において重要な近道となります。また、さまざまなアルファベットを使う世界の方である場合、言語の違いはさらに大きくなり、その指導法も、学習者の母語や背景に合わせたものにする必要があります。

このように、日本語教育に必要な知識は多岐にわたります。その幅広さに合わせ、日本語教育の分野で、日本語に限らず、様々な研究や学習も行われています。

杜沁桓 博士後期課程2年

唐磊 等（2013）『新版中日交流標準日本語 初級』人民教育出版社



# 月刊名大文学部 第127号

隔月刊行



編集発行：  
名古屋大学文学部広報体制委員会  
koho@hum.nagoya-u.ac.jp  
寄稿者の所属と学年は寄稿時点のものです。  
2022年5月10日発行